

**平成29年度 安曇野市中学生
海外ホームステイ交流派遣事業
体験作文集**

平成30年3月17日(土) から平成30年3月26日(月)

安曇野市・安曇野市教育委員会

事業概要

1 目的

本事業は、市内中学生が海外のホームステイの体験を通じて、異なる文化、英会話の基礎を学び、グローバル化が急速に進む現代社会において、すぐれた国際感覚とコミュニケーション力により活躍できる人材を育成することを目的とします。

2 派遣先

オーストラリア メルボルン

3 日程

平成30年3月17日（土）から平成30年3月26日（月）までの10日間

月 日	日 程
3/17(土)	出発（安曇野市役所） 成田国際空港⇒メルボルン国際空港⇒ホテル
3/18(日)	ウェルカムパーティー（ビーチにてオーストラリア式BBQ） ホストファミリーと対面、各ホストファミリー宅へ移動
3/19(月) ～3/21(水)	Stella Maris Primary School(小学校)で通常授業に参加 全校生徒で玉入れを実施 副校長より各生徒へ修了証を授与
3/22(木)	Kilbreda College(中高等学校)で交流
3/23(金)	メルボルン動物園、ビクトリアマーケット等を観光
3/24(土)	各ホストファミリーと観光、ショッピング
3/25(日)	ホストファミリーとお別れ メルボルン国際空港⇒成田国際空港
3/26(月)	成田国際空港⇒安曇野市役所

4 参加者

市内中学校7校の生徒14名

引率者：安曇野市教育委員会 学校教育課 主任 丸山 裕士
中学校英語科教員（穂高東中学校教諭） 小林 敦子

オーストラリアで過ごした10日間は、私にとって、自分自身を大きく変えてくれた、かけがえのない日々となりました。

オーストラリアでホームステイを始めてまず困ったのは、何を訊かれているのかわからないということでした。そのため私は、ただ笑ってごまかすことしかできませんでした。また、言っていることが少し聞き取れても、長いフレーズを言って失敗するのが怖くて「Yes」とだけ言って会話を終わらせてしまいました。しかしその日の夜、私はホストファミリーの家で、日常生活などで使える日本語がのった「Japanese」という本を見つけ、ハッとしました。「ホストファミリーはこんなにも私と繋がろうとしてくれているのに、このままで良いはずがない。上手く話せなくても、相手と繋がりたいという思いさえあれば、会話はできるはず！」そう思ってから、自分から積極的に英語を使い、現地の人と会話をするようにしました。例えば、1日の終わりに、「楽しかった」や「おもしろかった」などの感想に加えて、「学校はお城のようだった。」とか、「動物園に行ってコアラを見られたのがうれしかった。」など、一言付け加えてみました。また、なるべく自分から話しかけるようにしました。すると、日々の会話が前よりもずっと弾むようになりました。長いフレーズを言ったり、自分から話しかけたりするのは少し勇気が必要でしたが、言いたいことが伝わって相手が笑顔になってくれた時は、勇気を出して良かったと心から思いました。少しの勇気と、相手と繋がりたいという気持ちさえあれば、言葉の壁なんて簡単に超えられるのだなと思えました。

私が「失敗を恐れずに、どんなことでも勇気を出して挑戦してみる」ことの大切さを学び、大きく変わることができたのも、全てホームステイ先がオーストラリアだったからだと思います。私が3日間通った Stella Maris には、“フレンドシップツリー”という木があります。休み時間に遊ぶ友達がいなくてさみしい時、その木の下に行けば誰かが遊ぶ仲間に入れてくれるというものです。オーストラリアには、相手を尊重して誰にでも優しく接する文化があるのだと思います。だからこそ、オーストラリアの人々は失敗を恐れず、自分の考えをはっきりと言います。みんな自分に自信を持って堂々と生きています。私はオージーの姿を見て、自分もこんな風になりたいと思っただけで、日本もこんな風になればいいなと思えました。

今回のホームステイで、私は本当にたくさんの事を学びました。これから先大変なことがあっても、今回学んだことを生かして前に進んでいきたいと思えます。このような貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。ホストファミリーの Jezewski 家、そしてオーストラリアが大好きです！！

Let's try!

豊科南中学校 3年4組 奥原 凜子

大きな希望と少しの不安を胸に降り立ったオーストラリア。そこで過ごした10日間は毎日が驚きと感動の連続で、私の人生を変えるといっても過言ではないほど、刺激的で充実した日々となりました。日本との違いや、オーストラリアの人々の考え方などに直接触れることにより、多くのことを発見することができました。

ホストスクールである Stella Maris Primary School で算数の授業に参加した時のことです。その授業は、問題の答えを1人ずつ発表していくというものでした。もちろん、算数の苦手な人もいます。なので、1人ずつ答えを発表していく中で答えられない人や自信のなさそうな人もいました。そんなとき、Stella Maris の先生と生徒たちは、答えられていない人のために一生懸命ヒントを出したり、考え方を教えてあげたりしていました。そして、その人が正解すると、みんなが自分のことのように喜んだり、その人のことを褒めたたえたりしていました。またその他の授業では、1人1人の意見を尊重し、様々な意見を否定せず、受け入れる姿が見られました。このような事は、オーストラリアでは当たり前の光景なのだと思います。これらは日本でも増やしていきたい姿だなと感じました。

また私を大きく成長させてくれたのは、ホストファミリーの存在です。ホストファミリーは、私が現地に行く前からたくさんのメールを書いてきてくれ、私の不安を取り除いてくれました。そして現地に着いてからも、私が何かを間違えてしまって謝ると、「That's OK!」などと返答してくれたり、挑戦したことを褒めてくれたりしました。そのおかげで、失敗を恐れることなく、英語でのコミュニケーションにどんどん挑戦できたのだと思います。私を家族の一員として迎え入れてくれたホストファミリーには感謝しかありません。そんな私のホストファミリーは、来年来日予定で安曇野にも訪れてくれるそうです。その時に、私がオーストラリアで過ごした時間のような素敵な時間を日本で過ごしてもらえるよう、今度は私がおもてなしをする番です。日本の文化、そして安曇野のよさを知ってもらえるように頑張りたいと思います。

私がこのホームステイで学んだのは、一步踏み出してみないと何も始まらないということです。このホームステイ中、私は何度も間違えました。しかし、オーストラリアではそれを恥ずかしいことだと思っている人は一人もいませんでした。私はその気持ちに何度も救われてきました。「失敗を恐れず、どんなことにも挑戦する。」これがこれからの人生で一番大切なことだと思います。これから、このホームステイで学んだことを生かして未来を自分で切り開いていきます。

私は、この海外ホームステイ体験に参加させてもらえるとわかったとき、とても嬉しくて、いろいろなことをしてみたいと心はずませていました。でも、準備を進めていくにつれ、とても不安になりました。私は英語がとても苦手です。だから「話したいことが伝わらなかつたらどうしよう」と、とても不安で出発前夜はあまり眠れませんでした。

オーストラリアのメルボルンで初めてホストファミリーと会ったとき、英語もわからずどうしていいか困っている私に、ホストマザーがジェスチャーを加えるなどいろいろ工夫をして話してくださいました。いつも「Are you OK?」と心配して聞いて下さり、たくさん助けてもらいました。

私も相手への伝え方がわからないときに持参した辞書を引いて、考えて話すことが出来ました。

だんだんと自分から今日あった出来事について、ゆっくりですがホストファミリーに話が出来るようになりました。時々、質問された内容が分からないこともありましたが、それをその日の課題とし、辞書で調べて意味を理解することが出来、別の時には一緒に行った友達に聞いて理解することができました。日本について質問されたときにも答えることが出来、いろいろと日本についても知ってもらえたように思います。

メルボルンの小学校では、色々な授業に参加させてもらい、日本についての授業もありおどろきました。日本についての授業では、日本人の先生を中心に「あやとり」などをしていました。

中学校では、日本語の授業をしていて、ひらがなの歌をみんなで歌っていました。

ホストファミリーは、いつでも笑顔で話して下さい、それにより私も心に余裕が出来、自然と笑顔になりました。質問されたことに対して私の言いたいことが相手に伝わった時は、「英語で話すことがとても楽しい」や「どんどん相手ともっと話がしたい」などと思いました。

周りから聞こえてくる会話は英語だけ、こんな体験は生まれて初めてでした。このような体験をさせてもらった事は、私にとってとても素晴らしい良い経験となりました。この経験を将来に活かして行けるようにこれからも英語を話し、また深く関わっていきたいです。

日本での日常を離れて、「郷に入っては郷に従え」の気持ちでチャレンジしたホームステイ。オーストラリアで過ごした10日間は、何もかもが新鮮でした。初めて見るものばかり、聞こえてくるのも喋るのも英語だけ。当たり前ですが、文化や生活習慣など日本と違うことだらけでした。でも、そのオーストラリアのスタンダードを受け入れ、合わせて生活できたことがいい経験に繋がりました。

私がお世話になったホストファミリーは、みんな優しく大らかで、マイペースなところもある人達でした。彼らとたくさん話すことを楽しみにしていた私は、毎日積極的に会話をしようと努力しました。初日は早口と聞き慣れない単語の多さに苦労し、伝えたい時も文法が気になってすぐに言葉が出てこない自分の英語力に、心の底からがっかりしました。でも、めげずにどんどん話しかけ、家族の言っている事を理解したいと落ち着いて耳を傾けるよう心掛けました。だんだんと速い会話でのコミュニケーションがとれるようになった時にはうれしくて、一つ目標が達成できた気がしました。

ホームステイ中は家族やホストスクールの生徒達から刺激を受け、自分になところだから取り入れたいと思う事がいくつもありました。例えば、ホストシスター達のシンプルにはっきり意思表示をするところは、そうすればいいのか！と目からウロコが落ちそうでした。3姉妹は何かを選ぶ時にはそれぞれが自分の意見を主張するし、聞かれた事には回りくどい言い方をしないで答えます。もちろん、それが通用するのは時と場合によるし、相手への思いやりは必要です。でも、自分の意見をしっかり持って伝えようとする姿勢は大切だと改めて気付かされました。ママのタロウさんはいつも笑顔でポジティブでした。私が失敗した時には「That's OK, Don't worry」とまず声をかけ、その後前向きな言葉で励ましてくれました。それがとても心強くて安心でき、小さな事にくよくよしなくなりました。ホストスクールでは、活発で人懐こい生徒達と休み時間の度に鬼ごっこをしました。知らない子までが「HANA!」と教室に誘いに来てくれて、まるで人気者になったようでした。彼らのフレンドリーさを見習って、私も心を開いて人を受け入れようと思いました。

オーストラリアでの生活は、実際に体験しなければ分からない事でいっぱいでした。また、英会話を通して沢山のひとと交流することで世界が広がり、新しい価値観や考え方が身に付きました。私は将来、グローバルに人の役に立てる仕事に就きたいと思っています。そのためにも英語力を高めながら、心も大きく豊かに成長していきたいです。

本当にありがとうございました。

私は、日本の製品が海を越えた地で、信頼され使われているところを実際に見ることができ、とても感動しました。今回オーストラリアを訪れてみて、日本車の普及率の高さや、テレビなど日本の電化製品が当たり前のように日常に溶け込んでいて、日本のような小さい国でも世界と対等に肩を並べて製品を売り出せることをとても誇らしいと感じました。

現地での有意義な時間の中に、ホストファミリーの子供達が通うステラマリスでの時間がありました。日本の小学校とはまるで違い、とても新鮮でした。生徒達は皆、積極的に恥ずかしさを全く感じさせない雰囲気の中で授業をしていました。授業の内容があまり理解できていない自分でも、自然に笑顔になれる授業でした。休み時間でも見ず知らずの自分をサッカーに誘って仲間に入れてくれたことをとても嬉しく思い、生徒達の優しさを直に感じられる忘れられないひと時でした。そして何より私にとって一番の刺激となったのは、生徒の物事への取り組み方です。日本の小学校とは異なり、枠に狭く押しかためられているのではなく、一人一人が個性を出し合って、伸び伸びと物事に取り組む姿勢が見られ、自分にも何か変えるべき部分があるのではないかと感じさせられました。

今回、ホームステイを体験するに当たって、多くのことを学ぶことができ、同時に自分の物事に対する捉え方がかなり変えられたと感じました。「国が違えば文化も異なる」というところから始まり、10日間現地で過ごしてみて、初めて分かったことが本当にたくさんありました。誰も完璧な英語を求めているわけではなく、それ以前に気持ちが大事だということや、謝る言葉よりも「ありがとう」が優先されること、会話をすることの意味など、これまで当たり前にしてきたことの中にも、あらためて大切なものがあると気付かされる場面があり、これまでの自分を振り返る機会にもなったと思います。

また、オーストラリア発祥のスポーツである、オーストラリアンフットボールにも触れることができ、日本のスポーツとの違いを見ることもできました。

たった10日間で私の世界観は大きく変わりました。これまで気にしなかった小さなことを大切にできるようになりました。話している相手の表情を読み取ったり、他の人の考え方を分析したりと思考の範囲が広くなりました。

私は将来自動車関係の仕事に就きたいと思っています。安曇野から世界へ発信し、世界の誰でも分かってくれるような事業をしたいと考えています。そのためにも、今回現地の小学生に聞いた意見を参考にし、グローバルな開発に役立てていきたいです。私が学んだコミュニケーション力を礎に、これからも挑戦を続けていきます。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

このオーストラリアの語学研修に参加し、僕は将来、海外で人の役に立てるような仕事に就きたいと思いました。

オーストラリアでは、エレベーターで現地の人と一緒にになると「どこから来たの。どうしてオーストラリアへ来たの。」と気軽に話しかけてくれました。小学校では、「一緒に遊ぼうよ。」と同じクラスの子が、休み時間になるといつも誘ってくれました。誰に対しても友好的で、優しい心を持てるオーストラリアの人々は、とても素敵な人達でした。気さくに声をかける事でコミュニケーションが生まれ、気持ちの良い空間を共有できるという事を、僕はこの体験から学びました。知らない人に声をかけるというのは勇気がいる事ですが、これからは、自分から積極的に声をかけて、たくさんの人と話してみようと思いました。

また、ホストファミリーは、家族の一員として扱ってくれて、会話をしている時も僕が話の内容がわからなさそうな顔をしていると、内容が理解できるようにゆっくりとわかりやすい単語を使って、話に混ぜてくれました。

ホストファーザーは、車の運転中に路上で募金活動をしている人を見かけると、車をわざわざ止めて、募金をしていました。彼は、世界モスキートプログラムという非営利団体で、ボルバキアという自然細菌を、蚊を通して使用し、生態系を壊すことなく Dengue 熱等の流行を減らす研究をしているそうです。僕は、人の命を助ける仕事に尊敬の思いを抱き、その様な仕事への興味がとても強くなりました。

ホストファミリーは、「礼儀正しい態度が、とても良いよ。」と言ってくれました。日本人が大切にしている礼儀やマナーは、海外でも大切にされているものなのだと知り、改めて日本人としての誇りを感じる事ができました。

僕は、緑茶や桜のポストカード、北アルプスの写真等をお土産に持参して、安曇野や日本の文化について紹介し、寒天のゼリーをみんなと一緒に作りました。ホストファミリーは、「世界各国の料理を色々食べてみよう。」とローストビーフ、パスタ、タコスに中華と美味しい夕食をふるまってくれました。

日本の野球の様なクリケット、ラグビーの様なオーストラリアンフットボールも一緒に体験し、お互いの国の文化に触れ合いながら、それぞれの国の良さを発見できた貴重な 10 日間でした。オーストラリアは、人の優しさが自然とともにあふれている、とても心の暖かい素敵な国でした。

初めての海外体験は、色々なハプニングもありましたが、参加メンバー同士で助け合いそれぞれが得意分野で力を発揮して、みんなで乗り越える事ができました。このメンバーだからこそ、最高のホームステイになったと感じています。僕は、このすばらしい体験を生かしこれからも自分の夢に向かって、色々な事に挑戦して行きたいと思っています。

私は、話す言葉が違っていても伝えようとする気持ちさえあれば、いくらでもコミュニケーションがとれる事を学びました。逆に、いくら英語がうまくても自分から進んでコミュニケーションをとらなければ、友達を作ることができません。

私たちは、初日にビーチで初めてホストファミリーに会いました。そこでは、全てのホストファミリーがそろって、バーベキューを楽しんだり、ビーチで遊んだりしました。私はコミュニケーションをとるために、けん玉を持っていきました。そこでたくさんの子供たちと遊びました。子供たちに貸して成功した時、「Nice」とか、「Great」くらいしか言えませんでした。このような簡単なコミュニケーションでも、たくさん友達をつくることができました。

私のホストファミリーは、母親のローズさんと、2年生の子供のマシューでした。二人ともとても優しくしてくれて、たくさん話すことができました。日本の事を質問してくれたり、色んな場所に連れていってくれたりしました。

2日目からは、マシューと学校に行きました。一緒に授業を受けました。生徒全員がとても積極的に授業を受けていました。先生が質問していないのに手を挙げていました。それくらい積極的でした。また、雰囲気がとても明るくて、自由な感じでした。私が一番印象に残った授業は音楽です。オーケストラの音楽を、生徒たちが床に自由な姿勢をとって聴いていました。聴き終わったら、自由にグループをつくって感想をシェアし、先生に伝えていました。ダンスをして、その曲をイメージしている子たちもいました。

日本の授業もありました。先生が「習字でそれぞれの名前を書きます。」と言ったとたんに、子供たちの歓声があがりました。みんな書き順を間違えていましたが、あたかも自分たちが日本人であるかのように書いていました。

小学校最後の日には、玉入れをしました。事前に玉入れの説明を考えて、説明をする練習をしてきました。説明している時、私たちのカタコト英語を熱心に聞いてくれました。実際に玉入れをやっているとき、私たちと同じくらいの学年の子供たちも本気になってやってくれたので、とても嬉しかったです。また、コミュニケーションもたくさんとることができました。

このような、とても積極的な子たちに負けないように、私からも話しかけました。簡単な文と、「Yes」、「No」、「Thank you」だけでもたくさん友達をつくることができました。自分が持っている英語を最大限に使うのは、とても難しいことでした。しかし、相手に伝えようとする気持ちだけで、私の言いたいことを大体理解してくれました。またいつか海外に行く時、この経験を生かして、自分が何をしたいのか、あらゆる手段で相手に伝えることを大切にしたいと思います。また、この経験を機に世界のいろんな場所に行きたいと思いました。普段の生活にも、学んだことを生かして、過ごしていきたいです。

オーストラリアでの僕のホストファミリーは、とても愉快的な人達でした。ホストファミリーの James はビールが大好きで、マザーの Heidi は優しく強い、兄の Harvy は運動神経抜群、弟の Darcy はいたずらっ子。そんな家族と毎日遊びました。家でおもちゃの銃を使って遊んだり、裸足でクリケットをしました。ホストファミリーは、色々な所にも連れて行ってくれました。その中でも、夕日を見に海へ行ったり、メルボルンを一望できる展望台や山に登ったり、電車を乗り継いで AFL というオーストラリアフットボールリーグの試合を見に連れて行ってくれました。目的地に着くまで、車内でかわした会話も楽しかったです。1番印象的だったのは、ホストファミリーとアイスを食べに行くとなった時、マザーが僕に〇〇ショップと××ショップ、どちらがいいか聞いているのに、それをかき消すようにファミリーとブラザーたちで〇〇、〇〇とコールが始まった事でした。面白い、もっと話したいと思いました。その他に Google Earth を使って、自分の学校、市役所、安曇野の温泉などを見せたりして、たくさん話をしました。

この、ホームステイ期間中、ちょっとしたハプニングがありました。それは、僕が財布を無くしたのです。その時は、自分もかなりパニックになりましたが、ファミリー達が、一緒に探してくれました。財布は無事に見つかり、すごくホッとした事を、今でも良く覚えています。

現地の小学校には、リセスタイムという、おやつを食べたり、外で遊んだりする時間があって、学年関係なくサッカーやバスケットボールをして、現地の子と交流をしました。授業に参加して、算数でかけ算を教えたり、日本文化の授業では、墨を使って絵をかいたりして、いろんな交流をしました。

今回のホームステイは、10日間でした。そのうち、オーストラリアにいるのは1週間だけ。出発する前は長いホームステイだと思っていたけど、行ってみると1日がとても短く感じました。それは、充実した毎日だったからだと思います。毎日知らないことが起きて、明日は何が起こるのか楽しみにしていました。オーストラリアには1週間しか滞在していないのに、何十年もいるような感覚がして、ファミリー達と別れる時、このメルボルンの地を離れる時は、本当に辛かったです。でも、一つ夢が出来ました。それは、この経験を生かしてレベルアップし、そう遠くない将来にオーストラリア・メルボルンの地をまた訪れることです。最後に、この様な貴重な体験を行う上で、いろいろと準備をしてくださった方々、一緒に行った13人の仲間に感謝したいと思います。

ありがとうございました。

私はオーストラリアでホームステイすることに不安がありました。全て英語で会話しなくてはいけない。どんな問題も自分で解決しなければいけない。そのような慣れない生活を送らなければいけないなんて本当に私にできるのかと思っていました。しかし、行くからには楽しもう！たくさん学ぼう！という前向きな気持ちにすることができ、10日間という短い期間の中でたくさんの経験をし、たくさんの事を学びました。

初めてホストファミリーと話したときは喋るスピードが速すぎて何を言っているのか聞き取るのに時間がかかってしまい、なかなかスラスラと会話することができませんでした。しかし、3日目くらいから聞き取りにも慣れてきてスムーズに会話することができました。私が勇気を出して話しかけてみれば、すごく明るく返してくれました。英語で話しかけられたことに応えるのがやっとなのに、話しかけることはとても緊張しました。

また、ホストシスターの通う小学校に行き実際に授業を受けてみると、日本とは全く違う教育スタイルにびっくりしました。先生が話していても立ち歩いていたり、課題が終わればパソコンを使い音楽を聴いたり、本を読んだり、一人一人が違うことをしているのに先生は注意をせず見守っているだけでした。しかし、私が行ったクラスに車椅子の男の子がいて、その男の子の車椅子をみんなが気を使って押してあげたり、代わりに物を取りに行ったりとすごく優しい子ども達でした。

私はこの海外ホームステイを通して人に対する優しさと挑戦する心を学び、そして視野が広がりました。私は今まで困っている人がいても「誰かが助けてあげるでしょ」と思って自分からは助けに行かなかったり、面倒くさいことは後回しにして好きなことしかやらなかったりと、物事を自分から進んでやる事を避けてきていました。しかし、自分の限界を広げられるようにこれからは広い心で挑戦心を持って前に進んでいきたいです。

オーストラリアで過ごした 10 日間は毎日が新しい発見と驚きでとても充実した日々を送ることができました。そして、たくさんの優しさに触れることができました。

行く前は緊張していなかったはずなのに、ウェルカムパーティーが近づくにつれ「自分の英語が伝わらなかったらどうしよう」「呆れられたりしないかな」とどんどん緊張してきました。ですが、会ったときにホストファミリーのほうから「Moeka!」と呼んで笑顔で迎えてくれて、ホストファミリーの温かさを感じました。

ホームステイの3日間は現地の小学校、ステラマリスに通いました。日本の学校では失敗を恐れ、発言・挙手をしない生徒がたくさんいて、私もその中の一人でした。ですが、ステラマリスの生徒は失敗を恐れずどんどん挙手をしていた驚きました。この姿は私たちが尊敬すべき、目指すべき姿だと思います。また、ステラマリスの生徒の言っていることが、なかなか理解できないときに助けてくれたのはホストシスターやホストブラザーでした。ゆっくりわかりやすく話してくれたり、ジェスチャーを入れてくれたりしてくれました。ステラマリスでは、尊敬すべき姿を学び改めてホストファミリーの温かさを感じるすることができました。

そして、この 10 日間で「挑戦しようとする気持ち」の大切さに気づくことができました。最初は私にとってホストファミリーに話しかけることが最大の挑戦でした。間違った英語を話すのが恥ずかしいとどうしても話しかけてもらえないのを待っている自分がいました。ですが、ホストファミリーの優しさのおかげで一歩踏み出すことができました。「挑戦しようとする気持ち」が自分を成長させてくれました。そのおかげでホストファミリーとのコミュニケーションをもっと取ることができ、ウェルカムパーティーの前に感じていた不安は確実になくすことができました。

今回このホームステイを通して、自分が思っている以上に多くのことを学ぶことができました。オーストラリアの温かさも感じることができ、オーストラリアの良い点、日本の良い点を改めて感じるすることができました。この経験を今後の生活に生かせるように、今回学んだことを忘れずに生活していきたいです。そして、この体験を様々な人に発信し、オーストラリアの良さ、日本の良さをたくさんの人に伝えていきたいです。

今回は貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました！

僕はオーストラリアへのホームステイを通じて感じたこと、思ったことが二つあります。

まず一つ目はオーストラリアの人は異文化に対してとても寛容だということです。初めてホストファミリーに会った日、僕は日本から持って行ったおみやげを渡しました。ホストファミリーはプレゼントした箸を早速その晩使ってくれたり、「これは何?」「どうやって使うの?」ととても興味を持ってくれました。また、夕食にバーベキューをした時には、「君の好きな音楽を教えて。」とホストファーザーの John に聞かれたので、僕の好きなロックバンドを教えたと、そのバンドの曲を聴いて「日本の曲もいいね。」と言ってくれました。

このようにオーストラリアの人が異文化を容易に受け入れてくれるのには、様々な国や人種の人々が互いに尊重し合う、多文化社会が築かれているからだと思います。だからオーストラリアで出会った人はみんな温かく、フレンドリーに接してくれたのだと思います。そのおかげで自分の中でたとえ上手に英語で話せなくても、積極的に相手に伝えようという気持ちが生まれました。そうやって生まれた会話からはいろいろなことが学べたし、とても楽しかったです。

二つ目は、日本のことをもっと深く学びたいと思ったことです。普通はオーストラリアに行ったのなら、オーストラリアのことを学びたいと思うはずですが、僕は逆でした。なぜなら、ホストブラザーと日本について話している時、いくつか自分にはわからない質問をされて、その時初めて、日本にもまだまだ知らないことがあるのだと気づきました。日本人なら当たり前なことでも、外国の人からすれば「何で?」と疑問になるのだと実感しました。

自分はそんな時に、日本のことをきちんと教えて、日本の文化を広げることができるようになりたいと思いました。

このホームステイで自分が感じたこと、思ったことは、どれも日本に居たら経験することのできないものでした。この経験を通して僕には二つの目標ができました。

一つ目は国を問わず、様々な文化を学ぶことです。そうして得た知識はグローバル化する社会で役立てることができるはずなので、これからも様々な文化を学んでいきたいです。

二つ目は英語力をさらに向上させることです。英語で自分の伝えたいことが言えなければ、蓄えた知識が相手にうまく伝わりません。そうすれば一つ目の目標はただの自己満足になってしまいます。知識を自分の中だけのものにしないように、英語で伝える力をつけていきたいです。

この目標を忘れずに、日本と世界の架け橋となれるように努力していきたいです。

「伝えたい」と思う気持ちを大切に

堀金中学校 3年1組 近藤 千文

オーストラリアで過ごした 10 日間。期待した以上に、貴重な体験をしてることができました。

渡航前、私は「とにかく沢山話す！沢山吸収する！」という目標をたてました。家庭のルールを質問したり自分の要望を言ったりという、基本的な会話は積極的にすることができました。

しかし、長い会話になると、話についていけず困りました。語尾が上がっているのが質問されているのはわかるけれど、何をどう答えたら良いかわからず、結局聞き返してしまう。現地の方は皆親切で、聞き返しても根気よく話してくれましたが、私は 1 回で聞き取れないことを「申し訳ない」と感じました。

そんな中、こんな出来事がありました。

ある日の夕飯の時、ホストファザーの Richard が、小人と歯に関する伝説を教えてくださいました。その話は、オーストラリアでは有名らしいのですが、私は全く知りませんでした。何の話をしているのかすらもわからない私に、ホストファミリーは全員で説明を加えたり、ジェスチャーを使ったりしながら、話してくれました。私はそのおかげで話を理解することができ、その後の会話につながりました。沢山助けてもらいながら理解できたこと、新たな知識を得られたことがすごく嬉しかったし、ようやく理解した私を見たホストファミリーが、とても嬉しそうな顔をしてくれたことも、心に残りました。

また、私は初めて、オールイングリッシュの生活を体験しました。その中で気付いたのは、“しっかり英語を話せなくても、「伝えたい」という気持ちがあれば相手はわかってくれる”ということです。

ホストマザーの Virginie と話している時、話したいことがうまく英語にできず、悩んだ時がありました。なかなか言葉が出ない私に Virginie は、ヒントになりそうな言葉を沢山言ってくれて、私がそれをつなげて作った文章が通じた時、「Well done!」とほめてくれました。“言いたいことがうまく伝わらなくても、「伝えたい」と思う気持ちは誰にでもわかってもらえるんだ！”と思い、それ以後は文法をあまり気にせず、伝えたいことを精いっぱい話すようにしました。すると聞いている人も熱心に耳を傾けてくれるようになり、「頑張って話をしてよかった」と思いました。

今回この事業に参加して、私はオーストラリアが大好きになりました。でも、今の英語力では足りないことが沢山あることもわかりました。今後も英語を勉強し続け、また必ずメルボルンへ行き、ホストファミリーと再会したいです。そして、将来の自分の夢を実現できるように、努力していきたいと思います。

オーストラリアで過ごした10日間。私は、日本で味わうことのできない貴重な体験をしました。

出発前は、自分の英語力に不安を持っていました。そんな気持ちのままメルボルン国際空港に着きました。空港では、入国審査を通るためすべて英語で受け答えしないといけません。「しっかり答えられなかったらどうしよう。」と不安を抱えながら入国審査を受けました。すると、審査官から、「Have a good time.」とにっこり笑って声をかけてもらいました。その言葉で私の中から不安が消え、思いっきり楽しもうという気持ちに変わりました。

ホームステイ1日目。ホストファミリーと対面しました。たくさん話しかけてくれました。でも、私には何を話しているのかなかなか理解できませんでした。それにとっても話すテンポも速く、対応することもできませんでした。

そんな私の様子を見て、ホストシスターのシドニーが、手助けをしてくれました。シドニーは、簡単な文法を使ってホストマザーが何を言っているのかを伝えてくれました。さらに私は、聞き取れないだけではなく、自分の英語も通じませんでした。原因は、発音でした。

ホームステイ2日目に買い物へ行った時も、うまく通じないことがありました。なかなか通じないので、心が折れて口を閉ざしてしまう場面がありました。そんな時、私を笑顔にしてくれたのは、シドニーでした。シドニーの好きなバスケットボールと一緒にしようと誘ってくれました。バスケットボールをしながらコミュニケーションをとり、信頼を築いていくことができました。

日本に興味をもってくれて、たくさんの質問をしてくれて、答えることができました。家族みんなでご飯を食べながら話をしている時間は、とても内容が詰まったものになりました。

日本とオーストラリアには、考え方や常識とされていることに違いがありました。例えば、お土産で自分の好きでない食べ物をもらった時、日本では、とりあえず受け取ると思いますが、オーストラリアでは、いらないと断る場面がありました。自分の意見をしっかり主張するオーストラリアは、良いなと思いました。

海外の人たちと関わるには表現力や積極性が必要で、私はこの10日間で少しは身に付けることができたと思います。私の話を一生懸命理解しようとしてくれたオーストラリアの人たちに、どうにか伝えたいと話した結果、とても楽しい時間を過ごせました。私は、将来オーストラリアに住みたいと思っています。そこでもう一度、たくさんお世話になったホストファミリーに会いたいです。そのために、今まで以上に勉強を熱心にしたいです。そして自分から前に進んでいけるように、成長したいです。

今回、このような貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

自分を変えるということ

明科中学校 3年1組 関 彩都季

「自信が持てない自分を変えたい」そう思い、私はこの海外ホームステイに応募しました。

出発当日、私は不安と期待を抱えオーストラリアへ向かいました。現地に着くまで、自分の英語が伝わるのだろうか、とても心配でした。でも、メルボルンに到着すると、今まで自分が見たことのない美しい景色が目にとまり、その瞬間、とても楽しみな気持ちに変わりました。

2日目、この日初めてホストファミリーに会いました。ホストファミリーは、私を温かく迎えてくれました。家に着くまでの道のりも、色々な気遣いをしてくれました。

私は、2日目、3日目までは、ホストファミリーやステラマリスの子供たちが話しかけてくれる意味を、あまり理解することができずにいました。その度に私は「I'm sorry」と謝っていました。すると、ホストファミリーや学校のお友達は「No! No! That's OK!」と言ってくれました。オーストラリアの人たちは、常にこのような優しい言葉を誰にでもかけてくれていたように思います。

そうしているうちに、いつの間にかみんなが話しかけてくれる内容が、理解できるようになっていました。それからは、コミュニケーションをとるのが上手いき、本当に現地の人たちと仲良くなれた気がしました。

5日目の夜でした。私は水が飲みたくなりホストマザーの所へ行きました。私がまだ何も言っていないのに、ホストマザーは私の顔を見て「OK!」と言って水を出してくれました。このようなことは一度だけではなく、何度もありました。私はその時、相手に伝えよう、相手のことを理解しようという気持ちがあれば、思いが伝わるのだと思いました。

「日本のお母さんよりスゴイ!!」と思いました。

英語は、世界共通語であり、コミュニケーションやビジネスにおいて必要不可欠です。私も初めて海外に行き、その大切さを実感しました。それと同時に、コミュニケーションにおいてより大切なことは、相手に伝えようとする思い、相手を大切に思う気持ちを持つことだと感じました。それは、私のホストマザーが教えてくれました。

日本人が持っている『おもてなしの心』は、実は海外でも多くの人を持ち合わせているのだと思い、とても嬉しくなりました。

私は、ホームステイという経験を通し、たくさんのことを学びました。その中で、自分を変えるということは、自ら積極的に行動することが大事だと学びました。目標であった自分を変える一步を、この経験を通し踏み出せたと思います。

このような貴重な機会を与えていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

本当に、ありがとうございました。

～旅の記録～

【出発】

深夜にも関わらず大勢のお見送りの中、成田空港へ向けて出発、朝メルボルンへと旅立ちました。



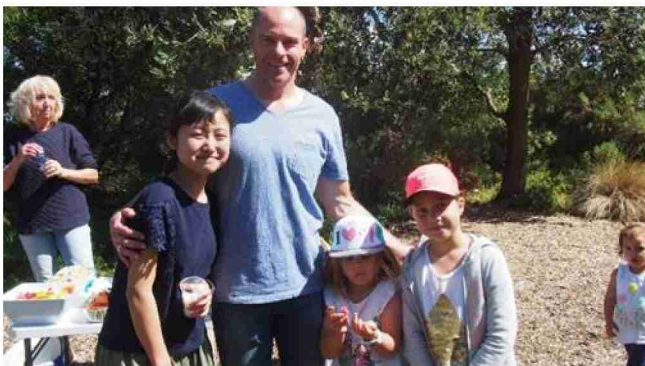
出発式



機内の様子

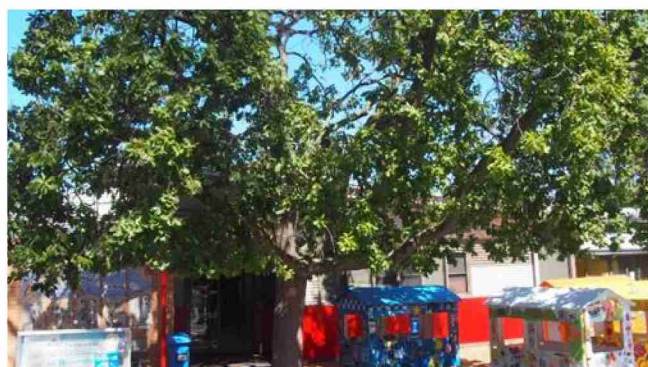
【ウェルカムパーティ】

メルボルンに深夜に到着後、翌日ついにホストファミリーとの初対面です。出発前にメールで連絡を取り合っていたためか、初対面とは思えないほど会ってすぐに打ち解けた様子でした。



【ホストスクール Stella Maris Primary School】

メルボルン郊外のステラマリス小学校へ3日間就学しました。
それぞれのホストブラザー/ホストシスターと席を並べて通常授業に参加して、オーストラリアのアクティブラーニングを体験



『フレンドシップツリー』の下で

ステラマリス小学校の幼児クラス入口にひととき大きな『フレンドシップツリー』と呼ばれる木があります。休憩時間など、遊ぶ相手がいない子はこの木の下で待っていると、誰かが誘いに来て一緒に遊んでくれるそうです。

オーストラリアは様々な文化を受け入れる寛大な国で、学校も皆に優しい学校です。



自己紹介の様子



休憩時間の様子

【玉入れ】

ステラマリス小学校就学最終日に『Japanese Day』という全校集会を開いていただき、生徒達は日本の運動会で定番の玉入れを紹介しました。



パワーポイントで玉入れのルールを説明後、実際に玉入れを体験してもらいました。日本の運動会は協調性や責任感を学ぶ大事な行事である事など、オーストラリアの子供たちに日本の文化を紹介する良い機会となりました。

【ホストファミリー】

ホストファミリーと一緒に様々な事を経験し、時には違いに驚き、時には共感しあい、絆を深めた10日間でした。英語力だけでなく、伝えようとする気持ちの大切さ、人を思いやる心等、数えきれないほどの多くの事を学ぶことができました。



東原小春さんとホストファミリー



奥原凜子さんとホストファミリー



倉科彩香さんとホストファミリー



須田花心さんとホストファミリー



山崎悠月くんとホストファミリー



渡部結斗くんとホストファミリー



田村侑祈くんとホストファミリー



青木大起くんとホストファミリー



平川優里愛さんとホストファミリー



中島萌花さんとホストファミリー



大倉克哉くんとホストファミリー



近藤千文さんとホストファミリー



有賀友海さんとホストファミリー



関彩都季さんとホストファミリー

【Kilbreda College キルブリダカレッジ】

日本の中学高校にあたるキルブリダカレッジを訪問し、同世代の学生と交流しました。



キルブリダカレッジの外観



スクールツアー



オーストラリアの学校に必ずあるリセスタイム（おやつタイム）ではオーストラリアを代表するお菓子や名物のミートパイ等を振舞っていただきました。





日本語を学習している学生たちとグループ毎に自己紹介をし合ったり、日本とオーストラリアの中学生の違いについてディスカッションしたりしました。



【メルボルン市内観光】

ホームステイ先の地域から電車でメルボルン市内へ行き、一日市内観光を行いました。メルボルンはイギリス情緒漂う美しい街で、世界一住みたい都市に7年連続選ばれています。



メルボルン動物園ではオーストラリア固有のコアラやカンガルーを見ることができました。日本の動物園と違い、檻の中ではなく、かなり自然に近い形で飼育されていて、動物達は幸せそうでした。



メルボルンの台所と呼ばれるビクトリアマーケットやブロックアーケード等も巡り、メルボルン観光を一日堪能しました。

【ホストファミリーとのお別れ】

別れを惜しんで泣いている生徒も多い中、「今度は私達が安曇野に行くね」と、再会を約束しているホストファミリーもいました。10日間という短い期間でしたが、ホストファミリーと深い絆で結ばれて、一生の忘れられない思い出ができました。



Thank you Australia

